

森から世界を変えるプラットフォーム×森林・林業ウーマン@海外部コラボセミナー

「森林とジェンダー」

2022年10月28日 10:00～11:30 オンライン開催

【前半】講演「女性から見るアフリカ熱帯雨林の暮らしと保全：カメルーン東南部でのフィールドワークより」京都大学アフリカ地域研究資料センター特定研究員（特任助教）四方篤氏

女性研究者としての生き方や、フィールドワークを通して見えてきた現地の女性の活動と森林との関わりについて、講演いただいた。四方氏は、森に暮らす人々の生業活動・森林資源利用（主にアフリカ・カメルーン）について研究しており、三児の母でもある。日本学術振興会特別研究員 RPD（Restart Postdoctoral Fellowship。出産・育児による研究中断を経た研究者の円滑な研究現場復帰を支援する制度）を2度経験。子育てで一時的にキャリアが中断されても研究を続けられる道があるということをご自身の経験も踏まえて説明された。

フィールドワークに関しては、カメルーンの焼畑農耕民バンガンドウの女性に学んだバナナの持続的生産と、狩猟採集民バカの女性たちに学んだヤマノイモの持続的利用と森の関係について紹介。フィールドでは女性たちとの台所での会話で得た情報が大きく、女性だからこそ得られた情報もあったという。

まず、焼畑農耕民について。彼らの主食は加熱調理用バナナで、焼畑で生産を行っている。保存できず収穫適期が短いバナナを毎日収穫できるように、バナナの熟期を連続的に分散させる工夫としてバンガンドウの女性達は、植え付け時期をずらす、複数の品種を植え付ける、複数の畑を並列的に利用するなどの工夫をしていることが分かった。また、それぞれの畑が放棄され植生が回復しつづけることで、休閑地では植生遷移段階の異なるモザイク景観が創出されており、遷移段階に応じた様々な森林資源の利用をとおして、焼畑後の二次植生の循環的利用がされていた¹⁾。

狩猟採集民バカの人々は現在、半定住化しているが、乾季にヤマノイモ採集キャンプに行くことがある。キャンプを実施した場所で7年後に調査をしたところ、ヤマノイモが集中的に生えていることが分かった。調理した際に切り捨てられたイモ片が、元の生育地から離れたキャンプ跡地で再生・分布を拡大し、個体数を増やしていた。ヤマノイモは、狩猟採集民の生活を支えると同時に、狩猟採集民の利用をとおして分布を拡大していることが分かった²⁾。

アフリカ熱帯雨林の暮らしは、森と人のかかわりをとおして生じる植生のダイナミズムと、そのなかで繰り返される作物生産および多様な森林資源利用に

特徴づけられる。保全のありかたを考えていく際には、いかに人為を排除するかということではなく、人びとが焼畑や森林資源利用にかんする在来の知識を活用することで暮らしを紡いでいくことのできる環境を維持・保全するという視座が肝要である。

1) バングンドウの焼畑・バナナ栽培に関する研究の詳細は、「四方 篤 2013.『焼畑の潜在力：アフリカ熱帯雨林の農業生態誌』（昭和堂）」を参照。

2) バカのヤマノイモ利用に関する研究の詳細は、「Yasuoka, Hirokazu 2013. “Dense wild yam patches established by hunter-gatherer camps: Beyond the wild yam question, toward the historical ecology.” *Human Ecology* 41: 465–475.」を参照。

【後半】パネルディスカッション（ファシリテーター：JICA 地球環境部 山中潤）

パネリスト：

- ・ 四方篤氏 京都大学アフリカ地域研究資料センター特定研究員（特任助教）
- ・ 瀧本麻子氏 Architecture for REDD+ Transactions (ART) Senior Portfolio Manager
- ・ 相馬真紀子氏 WWF ジャパン森林・野生生物室森林グループ長

■自己紹介

- ・ 瀧本麻子氏：「森林・林業ウーマン@海外部」の代表。専門は森林資源管理、REDD+。NGO インターン、JICA 職員、大学教員、国連職員等を経て、現職（森林カーボンクレジット認証機関事務局）。二児の母。
- ・ 相馬 真紀子氏：アジア、アフリカ地域を中心とした農村開発／林業政策の ODA コンサルタントを経て WWF 入局。木材やカカオなどの森林コモディティサプライチェーンの持続可能化を目指し、アジアやアフリカの森林保全プロジェクト、調達企業とのエンゲージメント等を担当。二児の母。

■パネルディスカッションでは、2つのキークエスチョンにお答え頂いた後、参加者からの質疑に対応した。

・キークエスチョン①「なぜ現在のキャリアを選んだのか、キャリアの軸やライフ面でのターニングポイントは何か？」に対しては、アニメ（風の谷のナウシカ）や大学院時代の研究対象、大学での授業がきっかけという回答のほか、途上国の森林伐採現場を見て森を守りたいと思うようになったという回答もあった。ターニングポイントは結婚・出産と回答した方が多く、結婚によりキャリアプランを変更することになった経験などについてお話しいただいた。

・キークエスチョン②「フィールドや仕事の中で、女性だからこそ見えたことや得られたこと等は？」に対しては、ローカルコミュニティを訪問した際に女性たちがどのように働いているか見えやすく聞きやすかったという意見や、子育てしながらのキャリアは、時間の有効利用やマルチタスクがうまくなり、ハプニングに動じなくなるという回答があった。また、部下の男性スタッフに子どもが生まれたとき、彼らの奥さんになった気持ちで配慮ができるようになったという意見もあった。

・会場からの、「自分（夫）が長期海外出張に行く際に日本にいる妻をサポートするにはどうしたら良いか」という質問に対しては、激励すること、オンラインで話をする、出張前に準備する（買い出しや料理等）、といったアドバイスがあった。また「職場で性別を優先して昇進させることについてどう考えるか」という質問に対しては、色々な世代・職務の層の女性が増えると良いとは思いますが、性別を優先した昇進の是非についてははっきりとは言えない、という意見がある一方で、キャリアアップに女性の方が消極的な場合が多く、持ち上げられて能力を発揮できることもあり、ある程度トップダウンで押していく必要もあるといった意見も聞かれた。

・パネルディスカッションの最後には参加者へのメッセージとして、「女だから上手くいかないかもなどと思わず、挑戦してほしい。」「ライフイベントで壁に当たることもあると思うが、一人で悩まず相談を。」等のコメントともに、そのような場として「森林・林業ウーマン@海外部」の活動について紹介がなされた。「森林・林業ウーマン@海外部」では、ライフとワーク双方に関する情報交換や、世代間の意見交換・相談等が可能。（興味がある方は、以下のフェイスブックページやメールでコンタクト下さい）。

フェイスブック：<https://www.facebook.com/profile.php?id=100068381036699>

E-mail：forestrywoman.jp@gmail.com